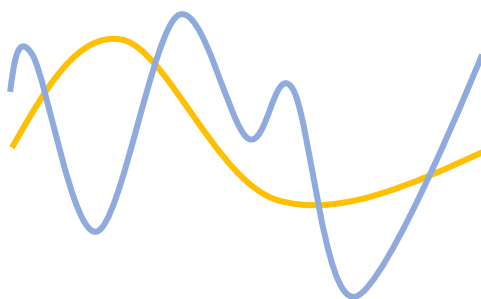


アナリーゼ
波動分析報告書／測定値

ヤナギランエキス末

2025年3月17日

AL-FOODS株式会社 様



アクアタック研究室
代表／片岡 章



〒 201-0004

東京都狛江市岩戸北3-8-11-401
Tel, Fax : 03-3480-9618

E-mail : aquatack@msc.biglobe.ne.jp

HP : <https://www.aquatack.com>

波動分析報告書／測定値 ヤナギランエキス末

2025年3月17日

AL-FOODS株式会社 様

アクアタック研究室
代表 片岡 章



〒201-0004
東京都狛江市岩戸北 3-8-11-401
Tel, Fax : 03-3480-9618
e-mail : aquatack@msc.biglobe.ne.jp

検 体 : ヤナギランエキス末

測定形態 : 波動消去したピーカーに検体10gを入れて測定

測定者 : 片岡 章

測定器 : PRA-NK型(旧称:QRS)

測定日 : 2025年3月17日

(S +1 = +100億)

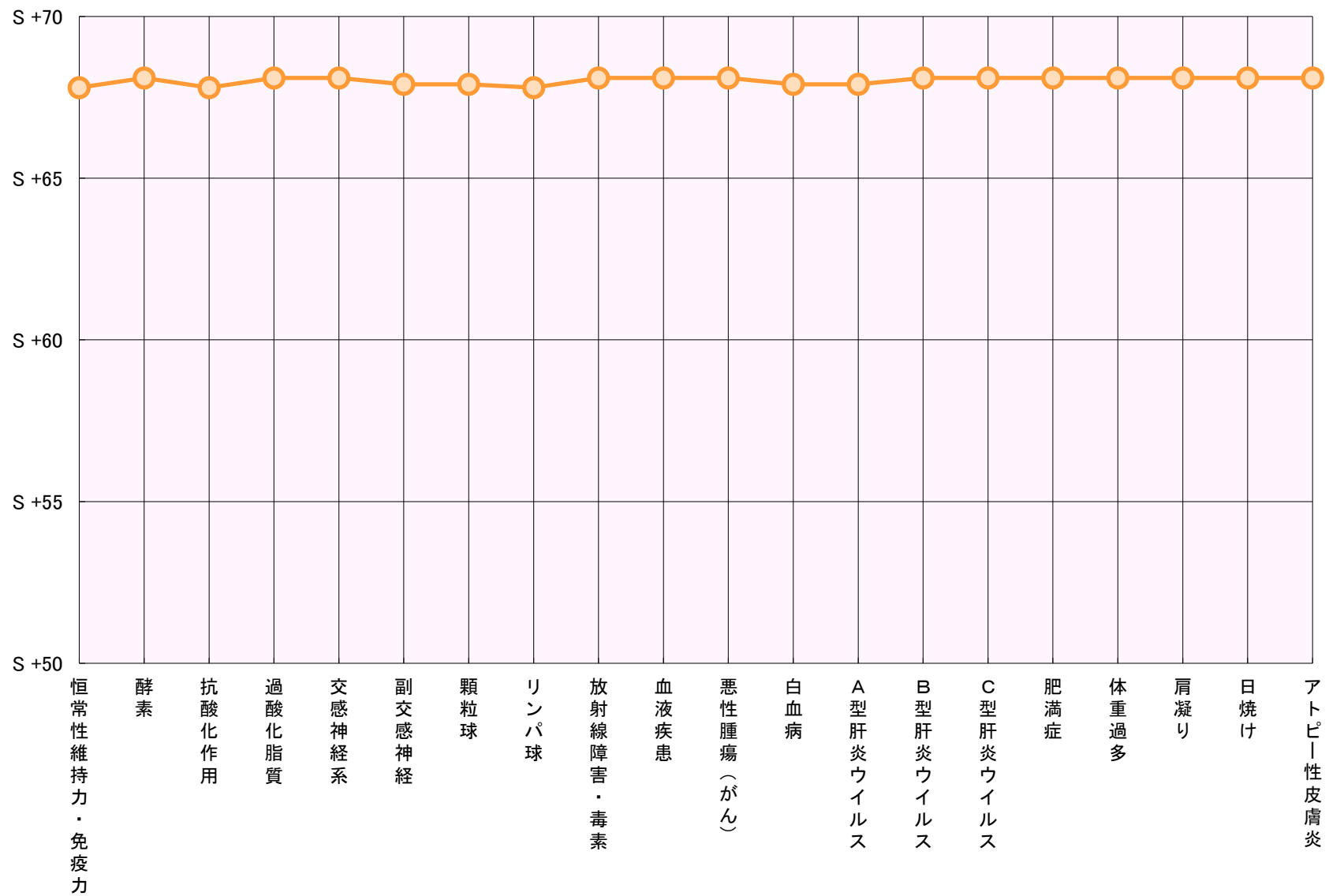
No.	項 目	code	ヤナギランエキス末	
1	恒常性維持力・免疫力	B222	S +67.8	
2	酵 素	A045	S +68.1	
3	抗 酸 化 作 用	A214	S +67.8	
4	過 酸 化 脂 質	H731	S +68.1	
5	交 感 神 経 系	A140	S +68.1	
6	副 交 感 神 経	D599	S +67.9	
7	顆 粒 球	P099	S +67.9	
8	リンパ球	E031	S +67.8	
9	放射線障害・毒素	E170	S +68.1	
10	血液疾患	H082	S +68.1	
11	悪性腫瘍(がん)	F005	S +68.1	
12	白血 病	E433	S +67.9	
13	A型肝炎ウイルス	D647	S +67.9	
14	B型肝炎ウイルス	F010	S +68.1	
15	C型肝炎ウイルス	A107	S +68.1	
16	肥 満 症	D373	S +68.1	
17	体 重 過 多	G354	S +68.1	
18	肩 凝 り	O916	S +68.1	
19	日 焼 け	I128	S +68.1	
20	アトピー性皮膚炎	F919	S +68.1	
最 大 値			S +68.1	
平 均 値			S +68.1	
最 小 値			S +67.8	
標 準 偏 差			+17	

* これまでに測定されている最も高い数値は **S +68.1** です。

- ☆ 頭に“S”のつく数値は、対数(log)を使用して独自に作成したものです。そのため、
 - ・ 小数点以下の数値は1~9のみとなります。0はありません。
 - ・ 誤差の切上げ(切下げ)により、見かけ上、平均値が最大値(最小値)と同値になることもあります。
 数値の詳細については、ホームページから資料『波動値の変換方法』をご覧ください。
- ☆ 「標準偏差」は、データの分布、ばらつきを示す指標です。また、優劣ではなく、ひとつの特徴を表すものです。S+1(=+100億)未満の場合は、頭に“S”が付きません。
- ☆ 波動値は、どの項目も、プラスの方が、望ましい意味になります。
- ☆ 波動値の高低が示すのは、その物品のエネルギー状態や作用の仕方であって、単なる優劣ではありません。

- ◎ 当波動測定は、現行の科学の範疇に属するものではありません。
また、医学的・薬学的な効能を保証するものでもありません。
- ◎ 上記の理由から、当報告書につきましては、
通常の化学分析・成分分析のような扱い(パッケージへの表示など)ではなく、
ひとつの試みによる資料としてご利用くださいますよう、お願いしております。
その範囲・スタンスであれば、印刷物・ネット情報として公表していただいて構いません。

ヤナギランエキス末



測定値から導かれる指標（統計量）

1. 《活性度》… 波動値の高さ

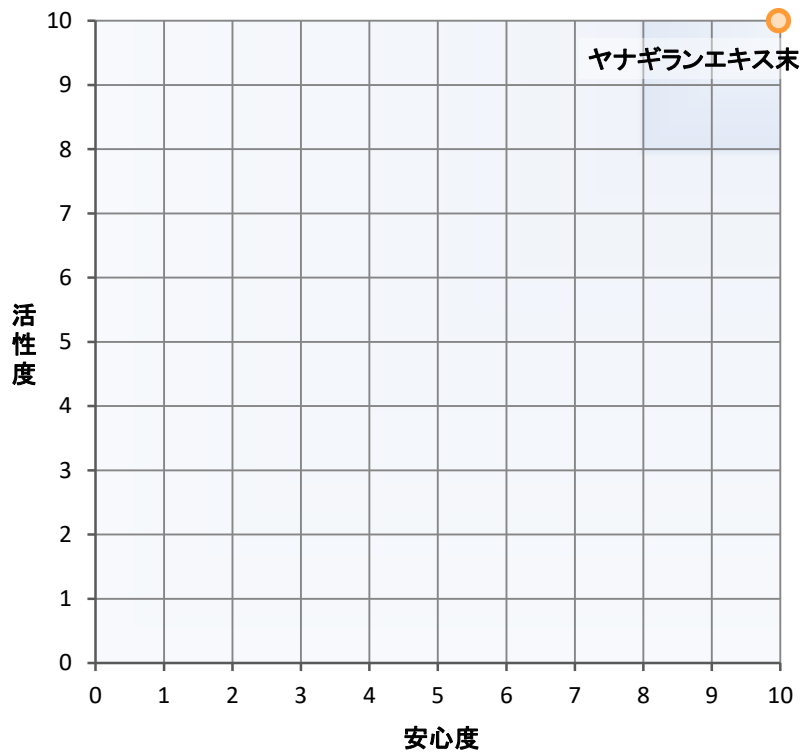
グラフ → 『《活性度》／世間の製品との比較』（3Dグラフ）
 『世間の製品の状況Ⅰ／《活性度》』（分布グラフ）

		ヤナギランエキス末		
■	最 大 値	S +68.1		
	平 均 値（活 性 度）	S +68.1		
	最 小 値	S +67.8		
* これまでに測定されている最も高い数値は S +68.1 です。				
■	これまでの最高値を10とすると	10.00		
波動エネルギーの活性度を表します。 波動値の高さが意味するものについては、下記資料をご覧ください。 → 『物品・製品の波動値(人への作用)』				

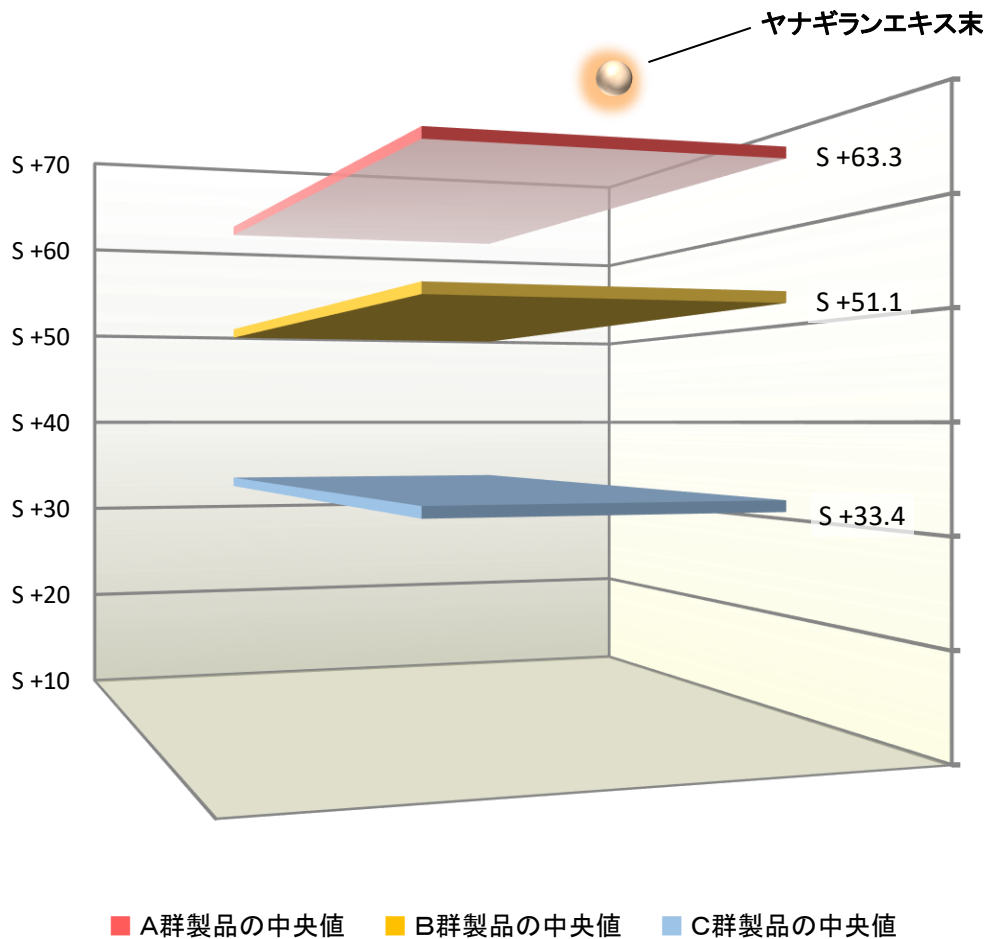
2. 《安心度》… バランス

グラフ → 『世間の製品の状況Ⅱ／《安心度》』（分布グラフ）

		ヤナギランエキス末		
■	安 心 度	9.97		
安心して利用できる度合を表します。 ・数値が 高い → だれもが 安心 して利用できます（食品など） ・数値が 低い → 効能とリスクが同居 するため、専門家の判断を要します（薬など） * 《安心度》は、標準偏差をもとに算出されています。				



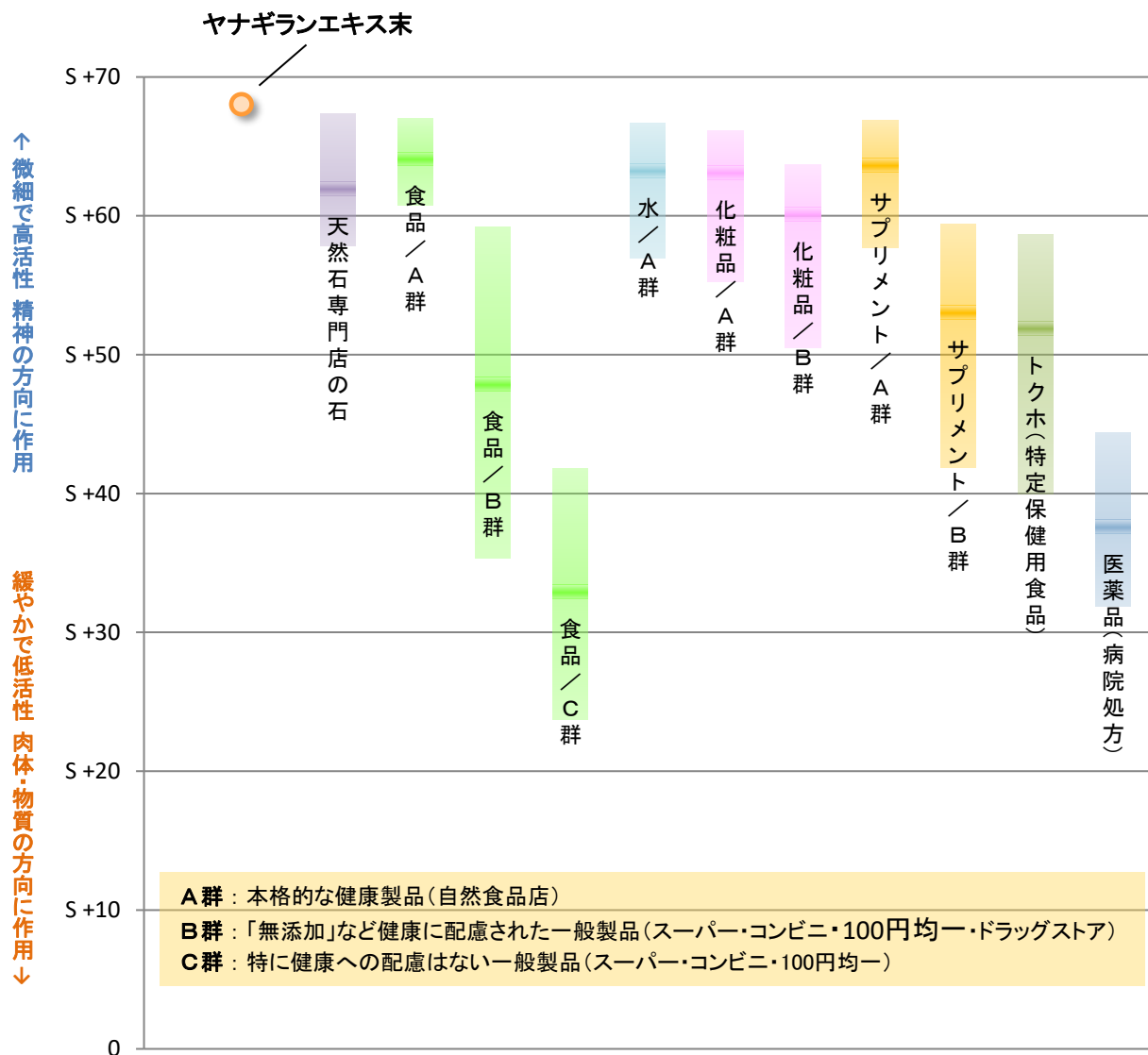
波動値の高さ / 世間の製品との比較



- A群 本格的に健康・波動を考慮した製品
自然食品店・ヒーリングショップ等にて販売されているもの
 - B群 「無添加」「有機」等の表示がある、健康に配慮された一般製品
スーパー・コンビニ・100円均一・ドラッグストア等にて販売されているもの
(「トクホ」「機能性表示食品」等を除く)
 - C群 B群のような表示がなく、格別な健康への配慮はされていない一般製品
スーパー・コンビニ・100円均一にて販売されているもの
- ・ 上のグラフは、現時点での推計値をもとに作成されております。
 - ・ 「中央値」とは、データを高低順に並べたとき中央に位置する数値のことです。
分布の形が正規分布になっていないため、平均値ではなく中央値を設定しました。

様々な製品の波動分布 I

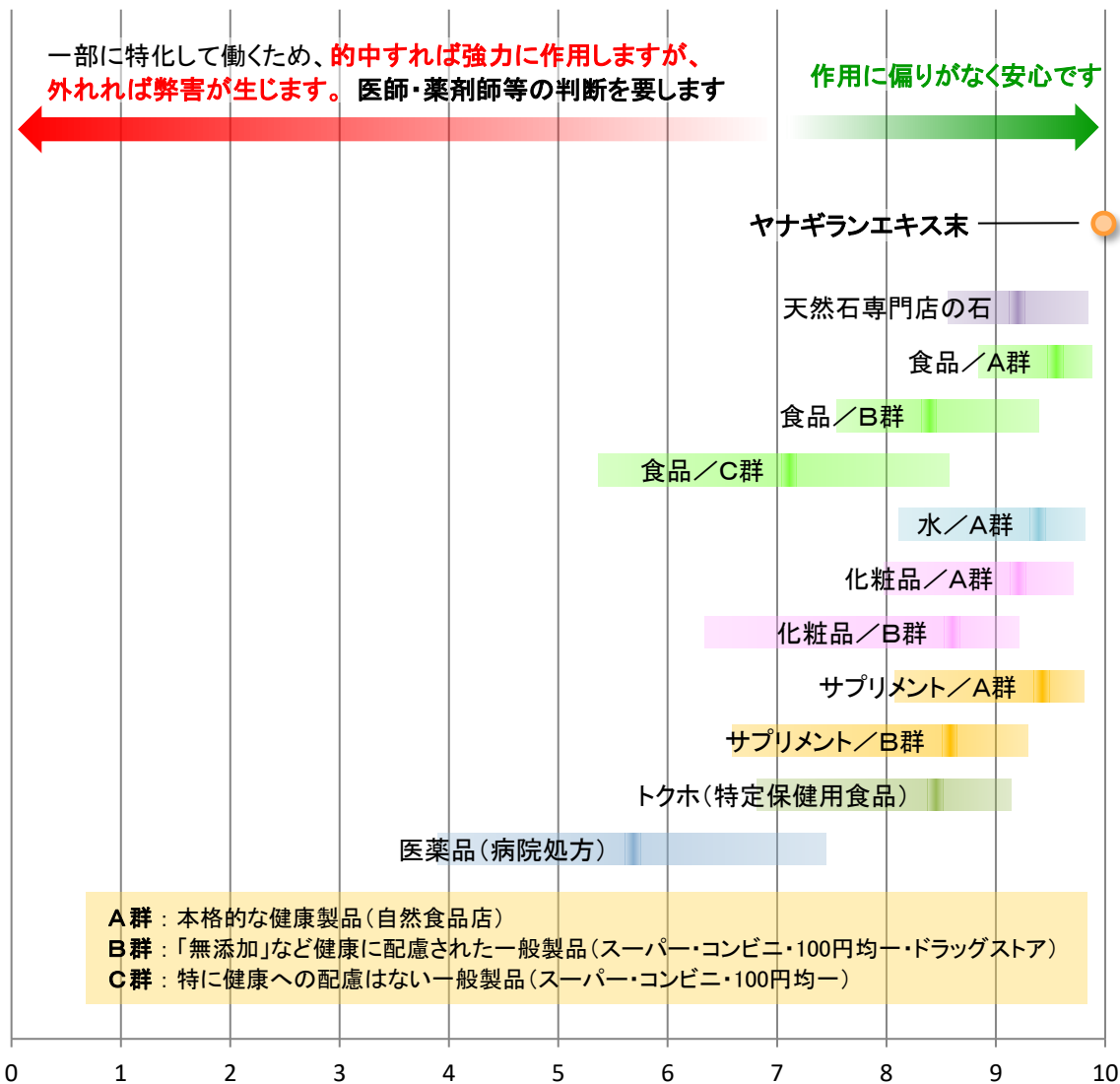
《 活性度(波動値の高さ) 》



- 各製品の波動値は、**高いところ、中間的なところ、低いところ**と、様々な領域にあります(波動の分布)。上のグラフでは、カテゴリー別に、製品の**約70%(中央値と、その上下35%ずつ)**が分布すると推定される範囲を描いています。* お手元の波動値(検体の平均値)が上図のなかでどこに位置するのかをご覧ください。一般に、上下とも、中央値に近いほど、該当する製品の数は多くなります。
 - * したがって、その上下(描かれていない部分)にも、格別高い、もしくは低い製品が15%ずつ存在していることとなります。
- グラフ全体についても、波動の高さとして中央付近(S +40 ~ S +50)に位置する製品は、一般的で需要の多いものと考えられます。
- カテゴリーの分類に際しては、「健康」「自然」「生命力」「感情・精神」「(作り手・売り手の)意識」など、波動値の高低に反映する要因を手掛かりとしました。

様々な製品の波動分布 II

《安心度(バランス)》



■ 《安心度(バランス)》とは

ひとつの製品であっても、測定項目によって波動値は異なり、数値間に差異が見られます。

《安心度》は、この差異から割り出したもので、以下の性質を表します。

- ・ **高値** = 格差が小さく、バランスがよい。誰もが安心して利用できる(食品など)
- ・ **低値** = 格差が大きく、アンバランス。特定の強力な作用が望める反面、リスクを伴う(薬など)

*《安心度》の計算式は、アクアタック研究室により作成したものです。

■ グラフの説明

《安心度》は、「天然石専門店の石」や「A群」では高く「医薬品」などでは低い、という傾向があります。

カテゴリー別に、製品の約70%(中央値と、その両側35%ずつ)が分布すると推定される範囲を描いています。

特定の効能を持たない「食品/C群」の《安心度》が低い理由として、添加物などの影響が考えられます。「医薬品」や「トクホ」のように特定の効能を目的として設計されたものではありませんから、想定外の偏りが生じていることとなります。